



## 謹賀新年

本年もよろしく

お願いいたします



令和七年



新年明けましておめでとございます。

皆様には、ご家族揃って、穏やかな新春を、迎えられたこととお慶び申し上げます。

令和七年は、西暦 2025 年、昭和では 100 年を迎えます。昭和、平成、令和と年号が替わり、その間、日本では、昭和には大きな戦争があり、平成には大きな地震と津波があり、令和には大きな感染症があり、昨年の元旦には、再び大きな地震と津波、水害や土砂災害がありました。日本だけでなく世界中で同じような悲惨な出来事が続いています。

さて、昨年末には、ケーブルテレビで、平成十六年の宿南の水害の記録の特集番組があり、ご覧になった方も多いいと思います。その中で「いざという時、まずは自助。そして、隣、近所との共助ができる関係づくりが大切」というお話がありました。大変な事を体験した人だからこそ、その大切なことを思うことができるのだと思います。宿南地区自治協議会とは、正に、宿南に住む一人一人によって構成され運営されていく組織です。その一人一人の意識が宿南地区を作っていくこととなります。

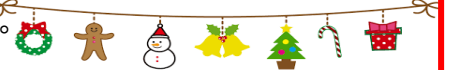
昨年、全住民アンケートを実施しました。その中で、「行事を減らす方が良い。」という意見もありました。行事に関わる人たちが、高齢化したり、人が少なくなったりして対応できないことが理由だと思っています。「やらされる行事」は最小限に、「やりたいと思える行事」は積極的に取り組めるように、皆さんで工夫していくことが大切だと思います。昨年は、宿南地区内の恒例事業は、秋の運動会が天候不良で中止になった以外は、概ね順調に運営することができました。それは、その陰にあった各事業担当の皆さんの協力と努力の賜と感謝しています。

そして、今年度の事業運営で感じたことは、今までになく皆さんの一体感や、前向きに取組もう、新しいことに挑戦していこうという気概を感じたことです。この様に地区の人たちが協力し合って、多くの人たちと顔を合わせて交流できることが体験であって、そこから感じられる大切なことに気づける貴重な機会だと思っています。何もしないよりも、行動を起こし体験をすることで、新たな展開が生まれてくると、私は信じています。

今年度、自治協議会として、これから10年先に向けた行動計画を作っていますが、計画だけでは意味がありません。今年から、一年毎の活動が積み重なって10年後の結果が生まれてきます。皆様にとって、この一年が宿南地区の10年先の未来を作っていく第一歩として、有意義で価値のある一年になりますことを祈念して、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## クリスマス会を開催しました

12月22日（日）ふれあい倶楽部ホールで、みぞれの降る寒い日でしたが多世代の48人参加で開催しました。出演は地元音楽愛好家の皆さんにお願いし、クリスマス関連の演奏、参加者全員で歌唱したり、参加者の中の小学生5人による「喜びの歌」、大人6人の「きらきら星」をハンドベルで演奏しました。タンバリン・カスタネット・鈴・トライアングルのリズムも入り皆で楽しい時間を共有しました。ティータイムでは、ショートケーキやお茶菓子を食べ、喫茶ひまわりのおいしいコーヒーをいただき（子供はジュース）おしゃべりをしながら過ごしました。最後に来年が良い年になるように「お正月」を歌って終了しました。外は寒かったですですがホールの中とても暖かったです。



### お知らせ

1月15日（水）体育部部会 16日（木）20日（月）喫茶ひまわり 新春企画  
1月27日（月）文化部部会 1月29日（水）福祉部部会  
2月16日（日）ボウリング大会（別紙 配布）

### お詫び

紙面の都合により  
身近な植物シリーズ  
は、お休みします。



## 草庵先生紹介

日記 71



全国の各藩は軍事力の強化を急いでいた。豊岡藩の洋式の軍事訓練を見学する草庵は幔幕（まんまく）の右側から3人目

宮崎和夫さん作

長く鎖国をしていた日本だが、アメリカの要求に従い下田と函館を開港した。さらに、他の国も開港を求めてきた。これに賛同する者、反対する者で日本国内は騒然としてきていた。そんな時、池田草庵は塾生を連れて豊岡に出かけた。

「講義は『孟子』。検読1人、授読1人。『兵要録』を読む（中略）。午後、塾生を4、5人連れて豊岡に行く。この日は福田村の木築氏宅に泊まる」（嘉永7〈1854〉年8月8日）

豊岡に出かける前に読んでいる「兵要録」。これは江戸時代の初めに書かれた兵法の書物である。そして、豊岡に着いて知人などを訪ねてから3日後の日記にはこうある。「今日は豊岡藩士の練兵を見る」（同11日）

豊岡藩士が軍事訓練をするのを見学したのだ。この年の5月に草庵は「時務六策」を書いたが、その中で「外国は軍艦や大砲を持っているが我が国は弓馬刀が中心だ」と心配していた。幕府を始め全国の各藩は、軍事力の強化を急いでいた。大砲や小銃を備えたり、洋式の軍事訓練を実施したりしていた。草庵はそれを実際に自分の目で確かめたのだ。

国の外からの大きな圧力も心配事だったが、この年は国内で地震がよく起こっている。「午前4時ごろ地震。朝方また揺れる。明けてからまた少し揺れる」（同6月15日）。これは伊賀上野地震と呼ばれる。続いて、「午後10時ごろ地震」（同21日）と書いている。また11月になると「（前略）今日の朝、8時ごろ大地震」（11月4日）、そしてその翌日も「（前略）夕方、また大地震」（同5日）。青谿書院周辺には被害はなかったようだが、これらの地震は安政東海地震、安政南海地震とそれぞれ呼ばれ、被害も大きかった。草庵にとっても、外国からの圧力、国内の災害などからの心配事が続いた年であった。

この嘉永7年は、11月27日をもって、天変地異や災害などを理由とした改元が行われ年号は安政となった。新しい年号にして国の内外からの心配事を一新しようという期待も込められていたのだろう。

池田草庵先生に学ぶ会